



2017年9月4日

## 武田薬品とノイルイミュン・バイオテック社による 固形がんにも有効な次世代型 CAR-T 細胞療法の研究開発に関する提携について

武田薬品工業株式会社(本社:大阪府中央区、以下「武田薬品」)とノイルイミュン・バイオテック株式会社(所在地:東京都中央区、以下「ノイルイミュン」)は、このたび、次世代型キメラ抗原受容体発現 T 細胞(CAR-T)療法に関する提携契約を締結しましたのでお知らせします。この次世代型 CAR-T 細胞療法技術は、山口大学玉田耕治教授により開発され、ノイルイミュンが独占的に権利を有する基盤技術で、サイトカイン、ケモカイン等を産生する機構を有しており、がん治療の効果を高めるため固形がん組織の微小環境に影響をあたえるまたは変化させることが期待されます。本契約により、武田薬品とノイルイミュンは、幅広い種類のがんの治療に向け、この技術を活用した新たな CAR-T 細胞免疫療法の研究開発を行う予定です。

ノイルイミュンの石崎秀信社長は、「この技術は、当社の創業者であり取締役 CSMO でもある山口大学医学部免疫学教室の玉田耕治博士により開発された、固形がんに対する革新的な治療法開発のための基盤技術です。今回の武田薬品との提携は、本技術を活用した治療法を早期にがん患者様へ届けるための重要な一歩となると確信しています」と述べています。

武田薬品とノイルイミュンは、本提携下、CAR-T 細胞免疫療法の研究開発を加速するための共同研究を実施します。武田薬品は、本共同研究の実施に必要なリソースの提供に加え、ノイルイミュンへの技術アクセス料の支払い、株式投資を行います。武田薬品は、本提携により共同研究される複数のパイプラインに加え、ノイルイミュンの一部パイプラインの開発および販売権を独占的に獲得するオプション権を有します。さらなる契約の詳細については開示しておりません。

武田薬品の Oncology Drug Discovery Unit の Head である Christopher Arendt は、「当社の重点領域の一つであるがん領域における画期的な治療薬を創出するにあたり、次世代型 CAR-T 細胞療法技術は大きな可能性を有していると考えています。本共同研究は、最先端の技術に積極的に投資し、外部の素晴らしい研究者と協同し、がん患者さんの治療ニーズを満たす治療に取り組むという当社戦略の一例です。ノイルイミュンの研究チームは、最先端の研究施設である当社湘南研究所において活動を予定しており、革新的な細胞免疫療法の開発を加速させるため当社研究員とともに活動していきます。当社は、優れた業績をもつノイルイミュンの研究チームと共同研究できることを大変嬉しく思います」と述べています。

武田薬品は、当社の 100%子会社である Millennium Pharmaceuticals, Inc.を通じ、ノイルイミュンと契約を締結しました。

### <ノイルイミュン・バイオテック株式会社について>

ノイルイミュン・バイオテック株式会社(代表取締役:石崎秀信、所在地:東京都中央区、以下「ノイルイミュン」)は、国立がん研究センターおよび山口大学発ベンチャーで、山口大学・玉田耕治教授の開発した次世代 CAR-T 細胞を中心としたがん免疫療法に特化して日本発の画期的ながん免疫治療薬の開発を目指します。ノイルイミュンは新規がん免疫治療薬の迅速な開発、事業化に取り組み、国立がん研究センターや山口大学と提携することで早期臨床開発を加速化させ、新規治療を待ち望む全てのがん患者さん達にいち早く還元することを目的に設立されました。

CAR-T 細胞はがん細胞表面抗原を認識する一本鎖抗体と T 細胞の活性化を誘導する分子の細胞内シグナル伝達領域を融合させたキメラ抗原受容体(Chimeric Antigen Receptor: CAR)を T 細胞に遺伝子導入し作成します。従って、CAR-T 細胞は、がん細胞を特異的に認識し活性化・増殖してがん細胞を殺傷します。

<https://www.noile-immune.com/>

以上